

第5章 「環境力」の高い人材の育成

関連するSDGs



地球温暖化などの環境問題の解決には、私たちのライフスタイルを見直し、環境に悪影響を与えないライフスタイルへの変革と意識改革が必要となってきます。そうした意識を育てるためには、環境教育が不可欠となります。区では環境学習施設としてエコポリスセンターを活用し、ライフスタイルについての意識改革を推進し、行動へつなげる活動をしています。また、学校などの教育現場では「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」に基づく環境教育が進められ、「持続可能な社会の実現を担う人づくり」をめざし、環境教育を推進しています。

第1節 環境学習の充実

1 環境教育推進プラン2025

環境問題を解決し、持続的発展が可能な「エコポリス板橋」を実現するには、今すぐに、私たちのできることを学び、現在のライフスタイルの転換も含め、一人ひとりができることから直ちに行動を実践していくことが求められています。

区では、持続可能な社会の構築に向けて、区における環境教育の基本的な方針を示すとともに、区民、区民団体、事業者、学校等、区が展開すべき環境教育の方向や環境教育に関する基盤の整備など、環境教育の推進に必要な事項を定め、各主体それぞれの環境教育及び各主体の連携による環境教育の効率的・効果的な推進を図っていくこととした「板橋区環境教育推進プラン」を2007（平成19）年2月に策定しました。その後、環境教育推進法の一部改正を踏まえ、2016（平成28）年3月に「環境教育推進プラン2025」を策定しました。

欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する行動計画」として策定されています。また、「板橋区環境基本計画2025」の「基本目標5：『環境力』の高い人材の育成」及び「基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現」を具体化していくための計画でもあります。

プランの期間は、2016（平成28）～2025（令和7）年度までの10年間とし、達成すべき目標を定めています。

（1）プランの位置付け・期間

プランは、環境教育等促進法第8条の規定に基づく、「区域の自然的社会的条件に応じた環境保全活動、環境保全の意

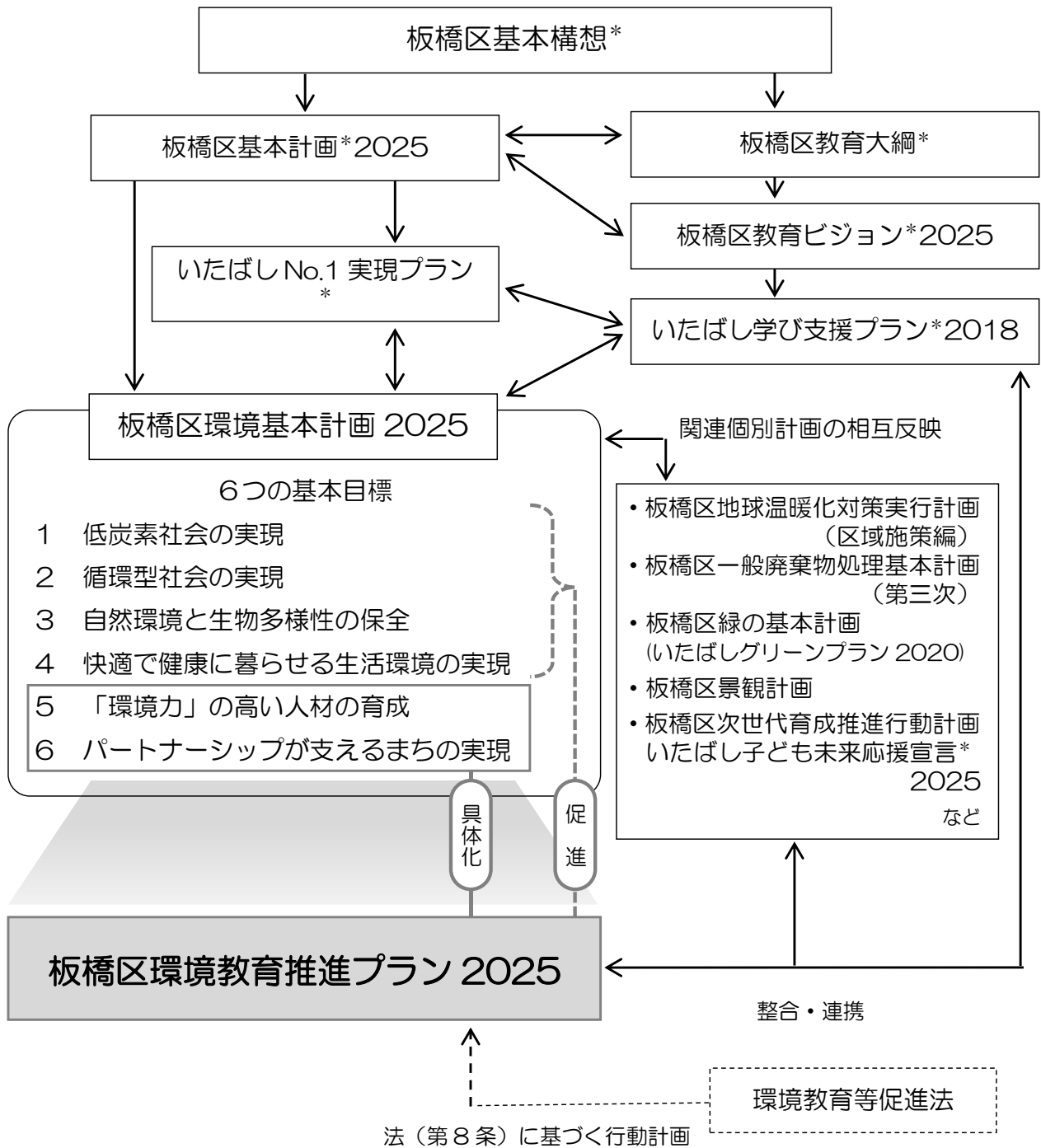


図2-5-1 プランの位置付け

(2) 環境教育の基本指針

- ① ESD (持続可能な開発のための教育) の視点を取り入れた環境教育の推進
- ② 持続可能な社会の実現を担う人の育成
- ③ 各主体による環境教育の実践

(3) 環境教育の推進に向けた取り組み

1 世代に応じた環境教育の推進

環境教育は、幼児から小・中学生、高校生、大学生等、大人に至る世代での、発達段階や生活のあり方に応じて、内容や進め方を工夫することが効果的です。そのためにまず各主体が、家庭や学校等、職場、地域で環境教育を実施する際に、見据えておくべき「環境教育のねらい」を示します。

2 各主体に期待される役割

板橋区の環境教育を効果的に進めていくためには、区民、区民団体、事業者、学校等及び区の各主体が役割を分担しつつ、対等な立場で連携・協働しながら、区全体が一体となった取り組みを進めていくことが必要です。役割分担を示すことで、区が実施する環境教育に関する施策や、各主体の自主的・積極的な取り組みにおいて、それぞれの活動の指針となるとともに、主体間の協働取組の促進を図ります。

3 環境教育を進める学びの機会（イベント・講座等）の提供

板橋区環境基本計画2025の基本目標1～4に沿って板橋区の環境教育を進めるために、「関心・興味」を深め、「参加・体験」による実感を伴う学びや、「理解・実践」へとつながる学習へと展開する一連の“学びの機会（環境に関するイベントや講座など）”を示します。

4 環境教育の推進のための基盤となる施策

板橋区環境基本計画2025の基本目標5～6の具体化に向けて、環境教育の推進の基盤となる施策を示します。

5 学校等における環境教育の充実

学校等における環境教育を推進して

いくための「取組の方向」を掲げたいうで、幼児期における環境教育や、家庭・地域との連携による環境教育の推進・展開等を示します。

6 協働取組の促進

協働取組を効果的に実施するための「取組の方向」を掲げたいうで、協働取組を促進するための施策や、地域での環境教育の取組モデルについて示します。

(4) 重点施策

1 エコポリスセンターの拠点機能の活性化

2 環境教育・協働取組の参加機会についての情報のスマート化

3 環境教育推進協議会の役割の活性化

4 地域環境コミュニティの形成の促進

5 板橋区の環境教育・協働取組実践情報のスマート化（魅力発信等）

(5) 進行管理の体制

環境政策課と教育委員会事務局指導室は、区の施策の進捗状況、目標達成状況及び各主体における環境教育の推進状況を把握し、区ホームページなどを通じて積極的に公表します。

把握した結果は、資源環境審議会及び環境教育推進協議会に報告し、本プランの進捗状況の評価や各主体の活動を支援するための具体策の検討などを行い、各主体の取組に活用していきます。また、「エコポリス板橋」推進本部等において、本プランの進行管理を行い、区の施策に反映します。

(6) プランの成果指標、目標及び取組結果

プランはPDCAサイクルに基づき、毎年度、進捗状況の点検・評価を行います。施策分野毎に進捗状況を測るものさしとして、10の成果指標を設定し、2025（令和7）年度までの数値目標を立てています。2018（平成30）年度における取組結果は以下のとおりです。

I. 成果指標の達成状況（2018（平成30）年度）

成果指標	基準年値 平成26年度	目標値 令和7年度	実績値 平成28年度	実績値 平成29年度	実績値 平成30年度	達成率	進捗度 ※1
施策1: 学びの機会の提供							
①全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数	25,674人	31,500人	26,916人	27,892人	26,544人	14.9%	停滞
②環境講座参加者数	22,898人	30,000人	23,747人	19,527人	22,751人	0%	停滞
施策2: 情報の提供・活用促進							
③環境教育プログラム利用校(園)の割合	74.4%	100%	80.0%	74.6%	82.5%	31.6%	順調
施策3: 人材の育成・活躍促進							
④人材育成に関わる環境講座参加者数	199人	400人	193人	241人	336人	68.2%	順調
⑤環境学習講師派遣人数	363人	500人	308人	235人	222人	0%	停滞
施策4: 場・拠点の整備・活用							
⑥環境登録団体数	27団体	37団体	28団体	29団体	27団体	0%	停滞
⑦エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	990人	1,300人	730人	842人	981人	0%	停滞
施策5: 学校等での環境教育の充実							
⑧外部人材を活用した環境学習実施校(園)の割合	76.1%	100%	77.4%	66.7%	67.5%	0%	停滞
行動変容							
⑨エコ生活(アクション9)の実施状況	75.0%	100%	82.4%	83.7%	81.7%	26.8%	停滞
⑩環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合	- ※2	100%	63.0%	66.9%	67.4%	11.9%	停滞

※1 計画最終年度の目標達成に向けた進捗状況。基準年値と比較して実績値がこのままのペースで推移した場合に、達成率が100%以上になるものを「順調」、100%まで届かないものを「停滞」とした。（2018（平成30）年度については、10か年計画の3年度目（一部を除く）であるため、達成率が30%を超えているものを「順調」とした。）

※2 行動変容の基準年値のないものについては、2016（平成28）年度の実績（63.0%）を基準とした。（2018（平成30）年度が評価の2年度目であるため、残年数から達成率を算出した24%を超えている場合を「順調」とした。）

- ① **全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数**
全区民参加型のキャンペーンとして「板橋クリーン作戦」、「ポイ捨て防止キャンペーン」、「打ち水キャンペーン」の参加者数を集計したもの。
- ② **環境講座参加者数**
エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の参加者数を集計したもの。
- ③ **環境教育プログラム利用校（園）の割合**
板橋区環境教育ハンドブックに掲載の“環境教育プログラム”を実践している（参考にしている場合も含む）区立小中学校及び区立保育園・幼稚園の割合。
- ④ **人材育成に関わる環境講座参加者数**
エコポリスセンターをはじめ、区が行っている人材育成に関わる環境講座等の参加者数を集計したもの。
- ⑤ **環境学習講師派遣人数**
区内保育園や小中学校等における環境学習の出前講座を行う際にエコポリスセンターから派遣される指導者等の人数。
- ⑥ **環境登録団体数**
エコポリスセンターに登録されている環境団体といたばし総合ボランティアセンターに登録されている環境団体を合計したもの（重複は除く）。
- ⑦ **エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数**
エコポリスセンターの事業に協力したボランティアの人数を集計したもの。
- ⑧ **外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合**
外部人材を活用して環境学習を実施している区立小中学校及び区立保育園・幼稚園の割合。

- ⑨ **エコ生活（アクション9）の実施状況**
地球温暖化防止のために暮らしの中でできる9つの行動（アクション9）の実施率。イベント等の来場者アンケートから集計したもの。
- ⑩ **環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合**
エコポリスセンター等の環境講座を受講した前後で、「環境」についての知識や考え方に変化があった者の割合。講座等の受講者アンケートから集計したもの。

II. 参考指標

上記の成果指標10項目のほかに、それを補足するための参考指標も設定し、成果指標と合わせて進捗状況を把握しています。また、一部の指標は「板橋区環境基本計画2025」の活動指標としても活用しています。

○環境講座等開催回数

エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の開催回数を集計したもの。

○エコポリスセンター入館者数

エコポリスセンターの年間入場者数。

○エコポリスセンターホームページ更新回数（区から発信する環境情報の更新回数）

エコポリスセンターのホームページ等の情報を更新した回数を合計したもの。

○環境イベント等開催回数・参加者人数

エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関するイベント等の開催回数及び参加者人数を集計したもの。

○ボランティア等の協力を受けたエコポリスセンター事業数

エコポリスセンターの事業のうち、ボランティアが協力した事業の合計数。

アクション9 (ナイン)

「アクション9」は、区が実施している普及啓発事業の一つで、地球温暖化防止のために日々の暮らしの中でできる“9つの行動”を紹介しており、「環境なんでも見本市」や「エコライフフェア」などの環境イベント等の際にアンケートを実施し来場の皆様を対象に取組状況を調査しています。図2-5-2は、2018（平成30）年度イベントの際に行った、アクション9（ナイン）の取り組みについてのアンケート結果です。中でも③・⑥・⑧・⑨のアクションは、約9割が実施しているという結果になりました。

左 : H30.6 エコライフフェア夏
中央 : H30.10 エコライフフェア秋
右 : H31.2 環境なんでも見本市

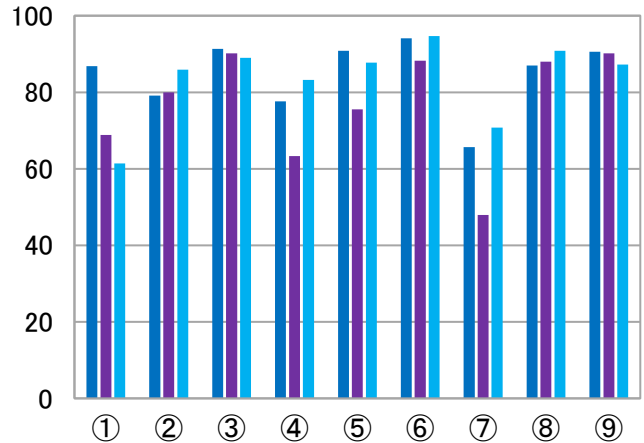


図2-5-2 アクション9（ナイン）の実行状況

■ アクション9（ナイン）

- ① 冷暖房の設定温度は控えめにしよう
(夏は28℃、冬は20℃を目安に)
- ② 見てないテレビはこまめに電源を切ろう
- ③ 照明はこまめに消し、LEDランプを選ぼう
- ④ 冷蔵庫の温度調節は「強」から「中」にしよう
- ⑤ 調理の火力をこまめに調節しよう
- ⑥ 水道はこまめに止めよう
- ⑦ お風呂は間をあげずに入浴しよう
- ⑧ 公共交通・自転車・徒歩で移動しよう
- ⑨ 新しいライフスタイルに取り組もう
(エコバッグを持ち歩こう、夏は涼しく・冬は暖かい服装をしよう)

2 板橋区環境教育プログラム

(1) 目的

2007（平成19）年2月に策定した「板橋区環境教育推進プラン」に基づき、環境教育推進のための仕組み（基盤）づくりの一環として、様々な環境教育プログラムをまとめた『板橋区環境教育ハンドブック』及び環境教育に関する情報をインターネットで公開するWeb版を作成しました。

ハンドブックは、幼稚園、保育園、小・中学校における授業等を主眼に、区民・区民団体・事業者等の方々が環境教育を実践するにあたり、環境教育に対する知識や経験の少ない指導者の方でもすぐに利用できるような具体的で体験的な活用しやすいプログラム等を提供し、環境教育のより一層の推進を図るものとして作成しています。

また、幼児から小学2年生向けのプログラムを抜粋した『板橋区環境教育ハンドブック（感受期前期～幼児・低学年編～）』も作成し、区内の幼稚園、保育園、児童館、あいキッズ等に配布し、各主体で活用しています。作成にあたっては、

保育士や小中学校の教員、公募区民等が参加する環境教育プログラム部会において検討が行われ、環境教育の現場に即した内容となるよう配慮しています。

(2) 板橋区環境教育ハンドブックの概要

環境教育における学習のテーマを「健康・安全」、「自然・アメニティ」、「地球環境問題」、「循環型社会」の4つの分野に分類し、学習テーマごとに対象段階（学年）を設定、学習のねらい・目標を明確にするとともに、授業等で必要な資料等を掲載しています。



① 板橋区環境教育プログラム

（95プログラム：2019（平成31）年3月現在）

例：葉っぱで仲間さがし、小さな地球をつくろう、光電池の発電や蓄電を学ぼう！、かぜとなかよし、ごみについて考えよう 等

② 環境教育プログラム事例集

（116事例：2019（平成31）年3月現在）

例：バケツで米づくり、水質を調べよう、ピオトープづくり、燃料電池ってなんだろう、学校の環境家計簿をつけよう 等

③ 板橋区環境教育ハンドブックWeb版

ハンドブックに掲載されている板橋区環境教育プログラム、環境教育プログラム事例集のほか、環境教育に必要な資料等の情報をインターネットで公開するもので、学習シートや教材などをダウンロードできるようにしています。

3 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム

(1) 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムの概要



【保・幼・小・中で一貫したねらいをもって実施】

保幼小中一貫型のカリキュラムであることが大きな特徴です。板橋区の小中一貫教育カリキュラムである「板橋のi(あい)カリキュラム」としても位置付けられています。4歳児から中学校3年までの11年間を、子どもの発達段階に応じて三期に分け、それぞれの段階におけるねらいと、子どもたちが身に付ける資質・能力、態度を系統立てて示しています。

【カリキュラムの内容構想】

発達段階に合わせて、以下のとおり3つの段階を設けています。

① 【FEEL】

環境を身近な問題として捉える感受性、共生や他者に対する思いやりの心を育成していく段階です。この段階で育む感受性や思いやりの心が、今後の問題解決を進めていく原動力になると考えます。

② 【THINK】

問題解決の活動を通して、環境に対する見方や考え方を育成していく段階です。

③ 【ACTION】

これまで身に付けた力を生かし、身の回りの環境や、自らの生活改善に向けて主体的に働きかけていく実践力を育成する段階です。

【環境をとらえる視点について】

環境は様々な視点で捉えることができますが、本カリキュラムでは「循環」「多様性」「生態系」「共生」「有限性」「保全環境」の、6つの視点を設定し、内容的に偏りがないようにしました。加えて、学習活動については、「身近な環境」から「全地球規模の環境」への視野の広がりや、「自らの生活を見直すこと」から「地域社会生活に自らが働きかけていくこと」へというように、発達段階に応じて、同じ視点で繰り返し学べる構成にしました。

小学校は2020（令和2）年度、中学校は2021（令和3）年度に新学習指導要領が全面実施されます。新学習指導要領の内容と、板橋区全体で取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）の視点も取り入れ、2019（平成31）年4月に改訂を行いました。

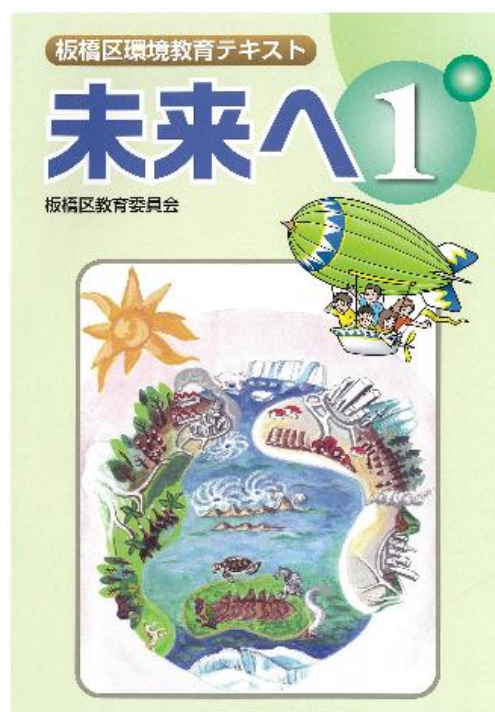
(2) 板橋区環境教育テキスト 「未来へ」の概要

上記の板橋区環境教育カリキュラムに基づく学習活動を各学校で効果的に実施するため、教育委員会事務局指導室では、2008（平成20）年度に小学校第3学年・第4学年向け「未来へ1」と小学校第5学年・第6学年・中学校第1学年向け「未来へ2」、2009（平成21）年度に中学校第2学年・第3学年向け「未来へ3」の3冊を作成しました。自然や文化、産業も含めた身の回りの全てを環境と捉え、その「多様性」に気付き、自分の生活との「つながり・かかわり」についての理解を進め、その上で自らが環境に働きかける実践力を育成していけるような内容になっています。テキストは、区内小中学校全児童生徒に配付しています。さらに、教師用指導書も作成し、「未来へ1・2」「未来へ2・3」をそれぞれ一冊にまとめ、教員が内容面での見通しをもって指導できるようにしています。

「未来へ」は、その時々の社会の要請に応じて改訂を重ねてきました。2015（平成27）年の改訂では、より郷土板橋の特色を感じさせる内容にし、柔軟に内容を選択できるようにしました。また、2019（平成31）年4月の改訂では、

SDGsの視点から内容を見直しました。

板橋区の子どもたちがこのテキストを活用し、「持続可能な開発のための教育（ESD）」の考え方に基づいた授業を通して学び、SDGsの達成に向けて、知恵と実践力を身に付けてくれることを願っています。



4 各主体による環境教育の取り組み

(1) 環境学習施設

① エコポリスセンター

エコポリスセンターは、人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現をめざし、環境教育・環境学習の推進、環境情報の発信、環境活動の拠点施設として、1995（平成7）年4月に開設されました。

館内には、総合案内を行うコンシェルジュや投影型の映像装置（ウェルカムウォール）を設け、来館者を歓迎しています。また、小中学生対象の自習スペースや乳幼児スペースを設置し、子どもが来館しやすい環境を整え、夏には緑のカーテンを育成し、区内屈指の緑のカーテンを間近に鑑賞できる機会を提供しています。

2018（平成30）年度の来館者数は161,537人で、累計来館者数は4,306,047人となりました。



■ エコポリスセンター



■ ウェルカムウォール



■ 緑のカーテン



■ 乳幼児スペース

② 熱帯環境植物館

1994（平成6）年9月には、区民の環境教育の施設として、高島平八丁目に「熱帯環境植物館（グリーンドームねったいかん）」が開設されました。この熱帯環境植物館は、世界の三大熱帯雨林の中から、日本と密接な関係にある東南アジアの熱帯雨林を立体的に再現したもので、潮間帯、熱帯低地林、集落景観の3つの植生ゾーンに分かれた温室を中心に、熱帯の高山帯の雲霧林を再現した冷室、地階にはミニ水族館を設けています。

熱帯や地球環境をテーマに、様々な企画展示や講演会を行い、環境問題の啓発・理解に努めています。2018（平成30）年2月1日には来館200万人を突破し、2018（平成30）年度の来館者数は、122,021人でした。



■ 温室



■ 熱帯低地林ゾーン



■ ハイビスカス



■ ミニ水族館

(2) エコポリスセンターの活動

エコポリスセンターでは、主に以下の事業を行っています（表2-5-1）。

- ① 環境イベント・環境啓発事業
- ② 環境学習事業
- ③ 指導者養成事業
- ④ 個人・団体・企業の育成・支援事業

また、エコポリスセンターは、環境について「知る・気づく」→「考える・学ぶ」→「行動する」→「交流する・育てる」という自然なステップアップが図れるよう展示施設や事業が組み立てられています。

「知る・気づく」ための仕組みとしては、館内における展示や一般参加型イベントを充実させています。緑のカーテンの育成展示や、身近な環境に関する標語及びポスター展等を実施し、年に数回複数団体による出展を伴う一般参加型イベント（エコライフフェア、環境なんでも見本市）を実施しています。

「考える・学ぶ」ための仕組みとしては、様々な環境講座を実施しています。保育園や小学校を対象に出前授業や、地域からの依頼に応じた講座（地域エコロジー講座）を実施しています。また、夏休み期間には、子どもを対象に環境実験や工作などを行う「夏休みエコスクール」を実施しています。

「行動する」ための仕組みとしては、区内の動植物を調査する「かんきょう観察」や、子どもを対象にした年間を通じた活動（グローブクラブ）など、参加型・自主活動型事業を展開しています。

「交流する・育てる」ための仕組みとしては、未来の環境学習指導者を養成する「板橋エコみらい塾」や、エコポリスセンターに登録し環境活動を実施している団体が交流する場として「環境活動連

絡会」を定期的にも実施しています。

その他、包丁・傘などの生活用品修理再生事業（現代のいかげやさん）や、リサイクルの実践学習講座（リサイクルワークショップ）などの事業も展開しています。

エコポリスセンターは、地域と密着した環境教育の拠点施設として、今後も区民や事業者、団体などと連携を図り、良好なパートナーシップを築いていくための活動に取り組んでいきます。



■ 板橋エコみらい塾



■ 環境なんでも見本市

表2-5-1 エコポリスセンターの主な事業等

分類	事業名	事業内容
環境イベント・環境啓発事業	緑のカーテン普及事業	身近な地球温暖化対策として、緑のカーテンを町ぐるみで広げていくための講座・コンテスト・スタンプラリー等。
	4館合同スタンプラリー	夏休み期間に、エコポリスセンター・熱帯環境植物館・教育科学館・リサイクルプラザの4館を巡るスタンプラリー。
	身近な環境に関する標語及びポスター展	区内の小中学校から環境に関する標語やポスターを募集し、表彰されたものを展示する。
	エコポ・フリーマーケット	出展者を募集してフリーマーケットを開催し、リユースの推進を図る。(年数回)
	現代のいかけやさん	包丁、傘などの生活用品の修理再生を行う。(年間)
環境学習事業	出前授業	保育園・小学校等の環境学習の支援としての出前講座。
	地域エコロジー講座	団体・企業等の依頼に基づいて行う環境学習講座。
	かんきょう観察	区内の環境(動植物等)の調査・観察。
	グローブクラブ	工作や自然観察、植物栽培などの体験学習を主とした講座。
	夏休みエコスクール	子どもを対象とした、身の回りのエコを学ぶ工作教室。
指導者養成事業	教員研修・保育士研修	子ども向けの環境学習の方法等を教員や保育士に身に付けてもらうための研修。
	板橋エコみらい塾	受講した方が学びを提供する側になるために、実践に役立つ方法論を授業で体験的に学べる機会を提供する。
個人・団体・企業の育成・支援事業	環境なんでも見本市	環境について、様々な活動をしている団体・企業・学校等が出展や講演、発表、交流などを行うイベント。
	エコライフフェア	温室効果ガスの削減について意識を深め、行動につなげるイベント。
	学校協定事業	区内の大学・学校との連携・協働を深め、若者層の環境問題への関心を喚起する。
	インターンシップ、職場体験等	大学・学校から実習生を受け入れ、説明会や職業体験等を行う。

(3) 学校における環境教育の取り組み

区民のライフスタイルを変革していくには、幼少時期において適切な環境学習により環境についての知識の習得や体験を通じて、常に環境を意識できるようにすることが大切です。このため、特に学校における環境学習の充実が必要となります。

エコポリスセンターでは、「総合的な学習の時間」への支援として、学校に対する出前講座・講師派遣を通して体験学習の充実を図っています。具体的には、「プール清掃前のヤゴ救出作戦」や「自然観察」等のプログラムの実施指導方法の相談、体験学習のためのNPO講師の派遣調整、教員への環境教育研修会の実施などを行っています。

さらに、環境学習を進めるためには、学校を核として子どもたちや家族、地域住民、事業者、環境団体などが相互に連携し、地域での環境教育へと展開してい



■ 教員研修会（自然観察のしかた）



■ プールのヤゴ救出と育て方
（区内小学校にて）

くことがきわめて重要です。

(4) 学校での実践



区立小中学校では、これまでも各学校の実状に応じて「緑のカーテン」をはじめとする特色ある環境教育が展開されてきました。しかし、環境教育は、内容が複数の教科にわたっていることが多く、環境教育自体のねらいは必ずしも明確にされていませんでした。そこで、教育委員会では、2011（平成23）年4月に就学前から小中学校一貫型の「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」を策定しました。これによって、就学前から小中学校で「持続可能な開発のための教育（E S D）」の考え方に基づいた体系的な環境学習を実施することが可能になりました。世界は、ひたすらに発展をめざす時代を既に終え、未来に向けて誰もが快適でより良い生活を送るためにはどうすればよいかを考え実践する段階に入っています。この「未来に向けて」の教育が「持続可能な開発のための教育（E S D）」であり、本カリキュラムの内容は、E S Dの考え方を具現化するものとなっています。

このように、就学前から小中学校が一貫したねらいの下に環境教育を実施するカリキュラムはほとんど例が無く、全国的にも注目される取り組みとなっています。

また、カリキュラムを効果的に学んでいくことができるよう、小学校第3学年

・第4学年向けテキスト「未来へ1」と小学校第5学年・第6学年・中学校第1学年向け「未来へ2」、中学校第2学年・第3学年向け「未来へ3」の3冊を作成しました。自然や文化、産業も含めた身の回りの全てを環境と捉え、その「多様性」に気づき、自分の生活との「つながり・かかわり」についての理解を進め、その上で自らが環境に働きかける実践力を育成していけるような内容になっています。

次に、カリキュラムに基づいて各学校で行われた実践の一部を紹介します。環境教育で大切なことは「理念」ではなく「実践」だと考えています。

① 校庭の自然を生かした環境教育の取り組み



区内の小学校では、ピオトープや芝生など、校庭の自然を生かした環境教育の学習に取り組んでいるところもあります。

総合的な学習の時間では、ピオトープと人との関わりの視点で、環境保全の大切さと持続可能性について、子どもたち一人ひとりが考えを深める学習をしています。

日常のピオトープや芝生の管理は、学校支援地域本部やあいキッズと連携し、環境ピオトープ委員会の子どもたちを中心に行っています。校庭の気温とピオトープの水温を測って記録したり、芝刈りや雑草取り、ピオトープに生息する生き物を紹介する掲示物を作成したりしています。

また、年に1回、環境保全に携わる地

域コーディネーターの方にインタビューをして作成した動画を、児童朝会で紹介しています。

こうした活動を通して、持続可能な社会づくりの担い手となるための力を育んでいます。

② ユネスコスクール、子ども環境大使の取組



ユネスコスクールとは、ユネスコの理念を実現するための実践を行う学校で、世界中の学校との交流を通じて情報や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざすことを目的として活動を行います。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けています。

板橋区では、2019（令和元）年10月現在、板橋第二小学校、板橋第七小学校の2校が加盟校として、蓮根第二小学校、緑小学校、西台中学校、高島第一中学校の4校が申請校として、ESDの考え方を取り入れた環境教育を推進しています。ユネスコスクール加盟校及び申請校は、子どもたちがエコポリスセンターから「子ども環境大使」として任命され、各校の特色を生かした取り組みを行い、ESDを推進します。

2018（平成30）年度は、板橋第二小学校と板橋第七小学校の2校が、子ども環境大使としての取組内容を紙面にまとめて、エコポリスセンターで展示しました。